

議員全員協議会

日 時	令和4年5月31日(火) 閉会中	8時54分 開会 9時57分 閉会
場 所	相良庁舎4階 大会議室	
出席議員	議長 16番 植田博巳 副議長 15番 村田博英	
	1番 石山和生	2番 谷口恵世 3番 絹村智昭
	4番 名波和昌	5番 加藤 彰 6番 木村正利
	7番 松下定弘	8番 種茂和男 9番 濱崎一輝
	10番 原口康之	11番 大井俊彦 12番 太田佳晴
	13番 中野康子	14番 大石和央
欠席議員		
事務局	局長 原口 亨 次長 本杉裕之 書記 大塚康裕 書記 本杉周平	
説明員	市長、副市長、教育長、総務部長、企画政策部長、政策監、 秘書政策課長、政策推進係長	
傍 聴		

署名 議長

開会の宣告

○議長（植田博巳君）

皆さん、おはようございます。ちょっと時間は早いですけれども、お集まりですので、議員全員協議会を始めさせていただきます。

本日は、第3次牧之原市総合計画案についてということで、説明を当局からしていただきたいと思っております。

全員協議会の中で、やはり所管事務の両委員会をまたいだ、全体で1回、説明を聞きたいということで、今日の全員協議会を開催させていただきました。よろしくをお願いいたします。

2 協議事項 (1) 第3次牧之原市総合計画(案)について

○議長（植田博巳君）

早速ですけれども、協議事項に入らせていただきます。

第3次牧之原市総合計画案についての説明をお願いいたします。

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

皆さん、おはようございます。ただいま議長からお話がありましたように、本日は、現在、進めております牧之原市の第3次総合計画につきまして、説明の場、そして議会の皆様との意見交換の場を設けていただきまして、誠にありがとうございます。

牧之原市の一番の課題は、若者の減少、少子化であります。今日の朝刊にも出ておりましたが、高齢化率は市の部で下田市に次いで2番目ということで32%ほどですか、高いということでございます。県下全体においても30%を超えたというようなことが出ておりました。

そうした中で、第3次総合計画につきましては、この課題の解決に向けて、具体的なプロジェクトを進める計画をコンセプトとして策定を進めてまいりました。

5月6日には、総合計画審議会から答申をいただきましたが、審議会側に市の考えをしっかりと示した上で審議を行ってもらったものであります。

また、牧之原市には鉄道インフラなどの施設がありませんが、ないものを嘆くというのではなくて、今、我々のところにある資源、あるものをしっかりと活用していくことが必要であるというふうに考えております。

マリンスポーツを楽しめる15キロの海岸線や豊かな農林水産物などを生かした魅力ある拠点づくりを進めるとともに、子育て世代のニーズに合ったサービスの充実、魅力ある教育環境によって交流人口などの増加を図るとともに、若者の流出抑制、定住につなげていきたいというふうに思っているところであります。

戦略プロジェクトにつきましては、これらの取組の考え方を整理させたものであります。詳細につきまして、担当から説明をさせますので、よろしく願いをいたします。

○議長（植田博巳君）

本間係長。

○政策推進係長（本間直樹君）

それでは、資料の説明を私のほうからさせていただきます。データでは二つ資料がありまして、まず最初に第3次総合計画の概要という、A4横の資料を開いてください。

今日の流れを簡単にお話ししますと、第3次総合計画がどのような背景、課題、そしてプロセスや構造でつくられているかということ、こちらの資料で簡単に説明させていただきます。

その後、もう一つの資料が総合計画審議会からの答申になりますけれども、この答申書に沿って、どういうことが書かれているかということに触れさせていただきたいと思っております。

それでは、まず資料を1枚めくっていただきまして、まず、総合計画とはということで、ちょっとこちら辺は申し訳ないんですが、少し触れさせていただきますと、以前は地方自治法という、全ての市町村の基本になる法律がありまして、そこで総合計画というものの位置づけがされておりました。これに則して行うようにしなければならないということになっていましたが、これは平成23年5月に法改正になって削除されております。

牧之原市では、ちょうど第1次と第2次の間になりますので、第2次からは、その次の自治基本条例ですね、市の条例に沿って基本構想は議決になっておりますけれども、これを根拠に策定しているという状況になります。

現在の総合計画は、法律に基づく義務づけが撤廃されて、市町村の意思で策定するようになっておりまして、そのため、市の実情や課題に対して実効性のある取組を進めていく、そういったものとしての、そういった計画として策定していく必要があると捉えております。

当市の特徴といたしましては、市長の任期が4年単位になりまして、それと期間設定を合わせることで、市長のマニフェストや政策推進の方針と合わせるということ、これは多治見市等が始めたことで有名なんです、こういう4年単位の計画という期間設定をしていることや、特に、やはり重点的に取り組む点を分かりやすく形にできるような、そういう計画構造を取っております。いろいろな形がここにあるんですけれども、周辺市でも両方あるんですが、やはり特に戦略性というのを重視しているというつもりでやっております。

最後に、計画策定とプロジェクトの具体化ということで、これは第3次から特に心がけてきているんですが、計画につくりましたプロジェクトは立てましたが、その中に書いてあることを具体的にどうやるのか、これから考えますということになると、限られた期間内でやはり効果的に進まないというようなことが懸念されます。現在、今回の基本計画のプロジェクトに載せさせていただいているものは、昨年度から庁舎内で課題を練ったり、外にある企業と組んで実証試験を行ったり、試しにいろいろやってみたりということで、ある程度、こういう考え方でこういう取組を、ということが言えるような段取りを持って計画に組み合わせているというふうなことをし

ております。

こういったところを、現在の総合計画の趣旨から、私どもはコンセプトとして進めておりまして、総合計画審議会にもこの点をお話しして進めてきているところであります。

次めくっていただきますと、これは社会増減の人口のグラフになります。これは何度もお話しているんですが、もともとリーマンショック時に大体100人ぐらいのマイナスだった人口の転出転入の差なんですけれども、東日本後、最大700人まで減りましたが、近年、ここ平成30年、令和元年頃は、ほぼゼロまで回復しております。

ただ、この背景は、市内の製造業が好調だったことで、外国人労働者が入ってきているという状況が反映されたものになっておりまして、実質、日本人の減少というのは、特に若者の減少というのは止まっていないというところがあります。

令和2年、3年に転入が大きく減ったことが、これはコロナウイルスの影響で入ってこれないようなことが短期間で出ているということも、それを裏づけるものになっております。

次めくっていただきますと、ここは先ほど市長が話した大きな課題である出生数の減少になります。10年前に比べて約半減ということで、特に近隣市に比べても大きな数字の下落になっております。

若者世代の減少というものは、さらに子供を産む世代につながる、その減少につながりますので、市の持続性と切って離せない問題になると捉えております。

続いて、婚姻、離婚の数字なんですけれども、こちらも先ほどと同様ですね。傾向は一緒なので、少し省かせていただきます。

ということで、次の6ページで、背景・課題ということで整理をさせていただいています。

まず市政における一番の課題は若者の減少であるということ、ここは外さないでいきたいと思っております。

この背景として、私たちが経験してきた社会は、ずっとこれまで人も物も増え続ける経済も人口も拡張する時代を生きてきましたが、住民の価値観やニーズの多様化、テクノロジーの進歩など、生活環境、働き方、ライフスタイルの大きな転換が今もたらされている。もっと言うと、もっと前からなんですけど、それが今、顕著に表面化している時期だと思っております。

下表に、少し審議会の中で議論した項目を拾っておりますが、例えば、人口問題では出生数が増加していた時代から減る時代、そして、3世代が同居していた時代から核家族化や未婚化、晩婚化が進んでいくようなことも大きな変化です。

福祉に至っては、60歳で定年して老後を過ごすという時代から人生100年時代と言われる健康寿命が延びて活躍する時代になって、さらに離婚なども増えてワンオペ育児が増えているような課題も増えております。

教育では、本当、教育のカリキュラム自体が、アクティブラーニングやプログラミングなどが入ってきて大きく変わっているということや、特に中学から学校を選んで外に出るような子供が増えているような状況が出ております。

産業も構造が大きく変わって、既存の仕事が、今後、半分なくなると言われているような時代ですし、働き方としても、やはり共働きだったり、特に自由に転職したりフリーランスで働くというようなことも出てきております。

暮らし方でも、便利で物が豊かな生活を求めるというような経済成長のときとは違って、少し心の豊かさや多様性、個性などを生かしたようなところを若い方たちが求めるような動きも出ておまして、地方の独自性がこういった暮らし方の魅力として評価される時代になったのではないかと考えております。

こういったことを考えると、従来の価値観や手法だけでは、今直面している課題に対応できませんので、やはり総花的に全ての施策を均等に取り組むというよりも選択と集中、特に小さな市町だからこそ、そういったところに力を入れるべきであると捉えております。

次、見てください。ちょっと二重になりますが、計画のポイントとして、都市機能の維持にはある程度の人口規模と密度というものは必ず必要になりまして、人口問題はこの持続性と切り離せないという意味で、今回、住むということに、特に具体的に力を入れていきたいと考えております。

それに当たっては、やはり今、既に住んでいる方、既にここに生まれて結婚している方が出ていくという、ここにゆかりのある方を、まずとどめないといけないと。プールに水を入れても底の栓が抜けていてはということもあるので、そのために子育てや教育、働き方など、そういったところをしっかりと充実していくとともに、やはり、外からこの市に魅力があると感じていただいて来ていただけるような、そういう環境をつくっていくというようなことを、両輪で回していく必要があると考えております。

次に行って、それに当たっては、やはりこの都市の構造で、地理的な特性、産業構造、それや、今ある資源、こういったあるものをしっかりと生かしていくということが必要ではないかと考えております。

牧之原市は沿岸部に、やはり市民の7割と生活関連や観光サービス、特に魅力ある地域資源、先ほど市長がおっしゃったようなマリンスポーツや農林水産資源など、豊富な環境がありますので、こういったところはそういう魅力を高めるために、より生かしていきながら、国道473沿いは高速交通インフラを活用して、1兆円規模の製造業が立地するという、非常にこの二つが特徴的に表れている市ですので、この山側の製造業のところにも人が流れてくる、人の通勤の流れなども生かしながら、こういった構造を発揮して、先ほど言った課題を解決するような取組をしていくべきであると考えております。

そういったことを審議会の中でも話をしながら策定を進めてまいりました。

下に表がありますが、ちょっと振り返りますと、昨年の11月から市内団体を集めて、今のような話をした上で、ワークショップでいろいろな意見を出していただきました。140人ほどが参加されて700くらいの意見が出たと捉えております。

その後、総合計画審議会に諮問をして、こういったデータを基に、どこに重点的に取り組むべ

きかというようなことを、基本構想案や基本計画のプロジェクト案の審議を経て議論をいただきまして、この5月6日に答申という形で、審議会の考えをこちらにいただいたというふうになっております。

現在、基本計画案のほうを少し調整しておりますので、また、審議会にはそちらについても、ご意見をいただくようにはしていくんですが、それと併せて、本日、議会の皆様との意見交換会をさせていただいたり、市民トークや市内団体の皆様に、再度、報告をさせていただいたり、パブリックコメントを経て、また、市民の皆さんに周知、ご意見をいただくことを経て、8月頃に最終案をまとめていくようなプロセスで考えております。

9月議会に構想案を上程させていただくということで、昨年度から少しスケジュールを示させていただきましたが、そこに向けて、特に落ちのないようにまとめていきたいと思っております。

10ページが、今度、計画の構造になります。こちらが基本構想、基本計画、実施計画の構造をまとめたものになりまして、ちょっとこの辺りは分かりにくい点かとは思っておりますが、まず、将来都市像や基本的な考え方、まちづくりや都市空間を利用していくに当たっての基本的な考え方を構想にあって、これをその下にぶら下がる七つの政策や施策に反映させていくという構想と計画の関係性になります。全ての計画や事業を関連させていくというようなところなんです。

さらに基本構想で重要なところとして、重点方針という、特に力を入れていく考え方として、四つの項目を拾っております。その項目に沿って、基本計画に4年単位で重点戦略のプロジェクトというものを設けまして、ここを特に力を入れていくというような構造になっております。

特に、重点方針や基本的姿勢など、考え方もそうなんですが、審議会の皆さんからご指摘いただいた点、ご意見いただいた点を反映させているというところになります。

11ページは、各基本計画の施策の大柱、中柱、小さい柱などを整理していますが、こちらはちょっとこの柱に沿って作文をしておりますので、またこちらは改めて示させていただきたいと思っております。

12ページからは、少し計画の中身の説明なんですが、まず、ちょっとここで二つほど先にやらせていただきたいのは、まず一つ、まちづくりの理念としては、「R I D E O N M A K I N O H A R A 夢に乗るまち まきのはら」ということで、これは2年ほど前に、6,000件弱の応募をいただいた中で、市のシティプロモーションのスローガンとして掲げさせていただいたものをそのまま活用いたします。やはり、市の中で普及している一つのスローガンがありますので、これが夢ややりたいことがかなうという、今の考え方とも沿っているんで、これをさせていただいて、将来都市像としては、「豊かな自然を活かした心豊かでアクティブな暮らしが実現できるまち」というようなところを入れていきたいと思っております。

次に、人口のところなんですけれども、13ページですね。こちらもちまち・ひと・しごと創生総合戦略に人口ビジョンという人口独自推計を入れておりまして、こちらのもので連動するように策定しております。

第1次のときから人口の推移も合わせて入れているんですが、第1次のときは約5,000人ぐら

いの人口が減っていましたが、第3次では3,000人ほどになっております、3,500人ほどですね。こちらはリーマンショックや東日本などの大きな社会的、外的要因が第1次のときにあったということもあるんですが、人口ビジョンの中でも、ある程度の政策成果、特に若者世代の流出を抑制することなど、そういったものを加算して、この黒い線が国立の社会人口研究所というところが出している推計になるんですけれども、こちらを上方修正するような形で推計人口をつくっております。

令和2年の10月の段階では国勢調査で4万3,502人という数字になりまして、私どもの数字が4万3,886人ということで、約300人ほど推計を下回ってしまったんですが、これは直近のコロナの影響で、転入者が確保できなかったということ、短期的な少し要因があったというふうに捉えております。

ということで、割とその精度の極端に離れていない推計になっていると思いますので、こちらを令和12年度末までいくと、約4万200人ほどの人口になりまして、同時期の社人研に比べると、約5,000人ぐらい減少抑制ができるというような数値になっております。

これには、特に若者世代の流出を抑制するというような項目を達成していかなければいけないと思いますので、これに添えるようにプロジェクトを進めていきたいと考えております。

次に、重点戦略プロジェクトの構造なんですけれども、基本構想に四つ、牧之原市らしい暮らしや遊びのローカルスタイルを創出というようなどころから四つの項目がありまして、前期基本計画では、そこに戦略1から5の5本を力を入れる、基本計画4年間のプロジェクトとして掲げたいと思っております。

こちらについては、後期基本計画では、また別のもの、この重点方針に沿ってつくられるということになりますので、あくまで前期4年間のものというふうに捉えていただければと思います。

ここまで少し概要ということでやってきましたが、少し答申そのものでお話ししたほうが計画内容等、分かりやすいと思うので、もう一つの資料、総合計画審議会からの答申という資料をお開きください。

こちら5月9日に審議会から答申をいただいたものになります。審議会が議論を重ねた結果、市のほうにこういった考え方で計画を進めてくださいということにいただいているものになります。

少しめくっていただくと、静岡新聞、中日新聞にそのときの記事が出ておりまして、静岡新聞の記事の小泉会長のコメントが真ん中の後ろのほうにあるんですけれども、「新たなまちづくりの道筋が明確になるよう、時代の要請に応じた計画を期待したい」というようなことで、市長からは、「答申を軸に、今ある資源を活用して市の課題解決に向けた取り組みを確実に実行していく」というようなことでお話をいただいております。

では、中身に入りたいと思うんですけれども、めくっていただいて、基本構想案の、まず1ページからになります。

こちらには、先ほどの、まちづくりの理念RIDE ON MAKINOHARAなどの言葉

が書いてありまして、めくっていただいて、2ページには、将来人口として4万200人という数字が入っております。

その下、6番からは、実現に向けた基本的な考え方・姿勢ということで、まちづくりの基本的な考え方として、安心安全な暮らしの確保、公民連携や市民協働、広域行政・広域連携、SDGsの推進、多様な人材や文化が共生する社会の実現などの5項目ですね。特に、今の時代の状況を勘案して、こういったことを配慮して各施策を進めなければいけないと思うことを拾っております。

次にいって、土地・空間利用の基本的な考え方ということで、こちらに関しては、既存市街と高台をつなぐ都市構造の構築、特に富士山型ネットワーク構造のような、先ほど、今ある資源を生かすという中で、まちの構造も考慮してというところをここにしております。

特に、やはり住宅地のニーズに対して対応するということが非常に審議会でも強くご意見がありまして、その住宅や観光・交流、ものづくりに関する各土地利用の考え方なんかも入れております。

次に、5ページに、取組に向けた姿勢ということなんですけれども、こちらが先ほどの基本的な考え方が少し手法のようところが近いんですが、こちらは姿勢のようところが、審議会から特にご意見をいただいたところになります。

やっぱりこういった時代なので、スピード感を持って取り組んだりチャレンジしてみるということが重要であったり、各取組と目的をターゲットを明確にして、目的に沿うような取組にするべきだということや、やはり、頑張っても知られていないということだと、しっかり拾わないので、魅力や取組を発信していこうというようなところを、取組の姿勢として審議会から貴重なご意見をいただいたので、このような形で残しているものになっております。

7番の、次、重点方針からが重点的に取り組む考え方ということで、一つ目が牧之原らしい暮らしや遊びのローカルスタイルを創出するというところで、先ほどの富士山ネットワークのような考え方のことが、少し理念として入れてあります。

次に、地球環境にやさしく、持続可能な循環型産業を創出するというところで、そういった新しい産業構造を、持続性のある産業を生んでいくようなところを書いてあります。

3番目が、特に若者が住みやすい暮らしを創出ということで、若者世代の流出に対応するような取組をしていくこと。

最後に、やはりこういった取組を進めるに当たって、行政運営についても課題に効果的に対応できる柔軟性や実効性のある対応をしていくようなところですね。その取組を進める行政の組織の改革のようところを入れてあります。

ここまでが、基本的な考え方として構想に入れさせていただきまして、次のページから基本計画ということで、より各論に近いことを記載させていただくものになります。

まずめくっていただいて1ページに、目的や構造や体系と書いてあるんですが、実は、この3番、4番のところ、30近くある施策の方向性が並ぶので、実際には、ここにかなりボリューム

が入るんですが、現在、今そこは作成中になっております。ということで、5番の重点戦略・プロジェクトということで、ここが先ほどの横断的に取り組む戦略・プロジェクトを位置づけ、経営資源の重点配分によって積極的に推進する分野というふうにさせていただいております。

ここから五つのプロジェクトになりますが、少しこちらを丁寧に説明させていただきます。

まず一つ目が、富士山型ネットワークの充実ということで、やはりこれは、当市は広大な大茶園や15キロに及ぶ砂浜の海岸線、豊かな農水産物やマリンスポーツなどの資源があって、さらにいろいろなところにアクセスしやすい環境にも好立地にもあるという中で、若者世代の流出を抑制するためには、沿岸、高台、それぞれの立地環境や地域資源を生かしたコンパクトで独自性があるエリアを拠点に、魅力あるサービスやライフスタイルをつくっていくと、そういった魅力ある拠点をつくりながら、そこでの楽しめるサービスとか暮らしの魅力をつくっていくというような、そういうプロジェクトです。

一つ目が、高台開発の推進ということで、こちらは第2次から進めております牧之原インターチェンジ北側の開発ですとか、あとは空港周辺や交通の結節点に魅力ある拠点をつくっていくという考え方になります。二つ目には、例えば坂部の道の駅のようなものが考えられると思っております。

二つ目が、既存市街地・沿岸部の活性化ということで、こちらは、静波、相良、地頭方などの沿岸部活性化の取組や、例えば、ミルキーウェイとか商店街とか、そういったエリアの魅力の発揮をしていくような取組を想定しております。

三つ目が、移住定住の促進ということで、こういった各拠点の整備と併せて、移住できるような支援メニュー、住宅用地の確保などを進めていくようなことで、四つ目は、そういった各拠点をつなぐネットワーク、交通モビリティサービスなどの検討などもしていくということの、これが各拠点をつなぐものになると思っております、これが一つのパッケージとして、プロジェクトとしてまとめさせていただいているものです。

次に3ページが、ゼロカーボンと経済成長の好循環の実現ということで、こちらに関しては、カーボンニュートラルというのは、国もやっていて、市もゼロカーボンをやっているんですけども、近年になり温暖化への対応というものが、経済成長や制約のコストではなく、やはり成長のチャンスと捉えるような時代になってきました。国でも非常に多くの支援メニューも用意しておりますし、民間企業も、ここにニーズを捉えて動いているということが、今あります。特に基幹産業であるお茶や自動車産業など、そういったものも大きな変化を求められている中で、こういった成長分野である環境分野を取り入れて持続性のあるものにしていきたいというもの。さらに、外国籍住民などが、そのために必要になっていくので、そういったところの共存も一緒にやっていくというプロジェクトになります。

一つ目が、ものづくり分野の転換と発展ということで、荒廃農地が進む茶樹などを排出権の仕組みと組み合わせる農家所得の向上につながるような取組をしていくことや、やはり地域資源と企業のノウハウを組み合わせるスタートアップのようなことの呼び込みをやっていくことで、企

業の力を使って産業の魅力を高めていくことや、製造業の企業もいろいろな設備更新などで、ズキさんも次世代設備の導入をされているんですけれども、非常にこういった動きが出ていますので、こういったところを取り組んでいくものになります。

二つ目が、多国籍、多文化の住民が共生できる社会ということで、やはり外国人住民の、外国籍住民が入ってくることに對して、スムーズに日本人とのコミュニケーションが取れたり、生活になじめるようなサポートをしていく、さらに、次の展開で言えば、そういった方たちがそういったいろいろな文化をこの地域で発信していただいたり、サービスとして提供していただければ、地域の魅力になっていくというところ、つなげるようなところ。

三つ目が、市民生活や公共分野の取組ということで、住宅へのいろいろな省エネ設備、創エネ設備の支援や、体育館でも、今ニアリーゼンをやっておりますけれども、公共施設やそういった再生可能エネルギーを活用するようなことも含めて、産業分野だけではなく市民生活や公共施設分野でも取組を進めるというようなものをパッケージにしております。

三つ目が、日本一女性にやさしいまちの推進ということで、4ページですね。出生数がやはり減少していることに對するのために、実はこれは外的要因も大きいですが、子供と暮らす場として選ばれていないということに、やはり対応しなければいけない中で、子育ての楽しさや、しやすさを求めて、居住選択する若者のニーズに對応できるように、特に女性の方が居住地を決めるときに大きな決定権があるなんていうお話もあるんですが、そういった女性の方が暮らしやすい環境を、特に子育てをする母親の目線で、働き方、保育・幼児教育などのサービスを充実して、若者世代の定住につなげていくことを意図するものです。

一つ目は、出産から子育てに関する支援の充実ということで、従来からの様々な経済的支援に加えて、不妊治療への支援とか、そういった疾病への支援、子供を産むことに対する支援策の充実をしていくというものや、二つ目は、特にニーズの高い公園施設や屋内型遊戯のこども館などを整備して、そういった環境を整えていくこと。三つ目が、やっぱり女性が自分らしく趣味や特技を生かして働いたり、子育てで我慢をするのではなく、子育てをしながら、やりたい働きができたりというようなことを、ちゃんと実現できるような支援策をやったりですとか、当市は特に1兆円規模の製造業を背景に多くの働き場がありますので、地元の企業と連携して、そういった女性が働きやすい職場環境をつくっていくということで、特に、この辺りが当市としての色が出しやすい分野じゃないかなと思っております。最後に、現在進めている保育園民営化によって、保育環境などのハード、ソフトの充実を進めていくものになります。

次、5ページで、戦略4のデジタル・トランスフォーメーションの推進ということで、こちらは今、全国の自治体で進めておりますので、当市が特化したというものばかりではないんですけれども、やはりデジタル技術を活用して、市民サービスの向上をやったり、あと、行政の業務の効率化を図ることで、やはり少ないコストで高いサービスが提供できるような、そういうデジタル技術の導入を進めることや、やはり情報発信やシティプロモーションの分野でも、こういった技術を活用して充実した市の魅力を十分発揮できるような、そういった活用をしていくというよ

うなものになっております。

最後の戦略は、次代を切り拓く力を育む新たな学校づくりということで、学校再編について、現在、進んでおりますけれども、特に令和12年度までに小中学校10校を9校の義務教育学校2校に再編するという中で、義務教育学校の設置の中、(1)にあるとおり、魅力ある教育のメニューですね。二つ目にあるとおり、地域資源を活かした牧之原らしいリアルな体験学習と、専門家と海外等とつながるICTを活用したオンライン学習のハイブリッドなど、地域の資源を生かしたよさと、そういったものを生かした魅力ある教育仕組みをしていったりとか、コミュニティ・スクールを今後も進めていくことや、学校再編、跡地の利用などを入れさせていただいております。

この五つのプロジェクト、それぞれパッケージになっておりますけれども、こういったことが組み合わせると、うまく形にしていくことで、市政の課題である若者の減少を抑制して、持続性のある市政の経営につなげるような、そういったプロジェクトにしていきたいと思っております。特に第3次の前期基本計画はここに力を入れて進めるという意図で、現在、策定を進めております。

その後ろに、先ほども同じなんですけれども、基本計画の体系図がちょっと入っているんですけれども、こちらは、今現在、策定中なので、また次の機会にご説明をさせていただきたいと思っております。

説明は以上です。

○議長（植田博巳君）

ありがとうございます。

第3次の総合計画の骨子というんですかね、基本的なところを説明をいただきました。

この件に関して質疑がありましたら、よろしく願いいたします。

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

内容については、これからいろいろ議会としても精査していくようになると思うんですけれども、一つ、当初、市長の冒頭の挨拶でも、既に審議会のほうから答申をもらっているという言葉があったんですけれども、それで、総合計画審議会の会長さんが静岡産業大学の教授の小泉さんという方で、立派な方だと思うんですけれども、大体、いろいろな市町のものを見ていても、大体こんな感じなんですよね。大学の教授の方を会長ということで。恐らく牧之原市とどういうゆかりがあるのか分からないんですけれども、本当はやっぱり、そのまことに一番関わって、過去を分かって、また未来にどういうまちづくりがあるというのが本当に分かっている方が、こういったものの会長をやってもらって、それで今後の牧之原市のまちづくりを、しっかりやっぱり考えてもらえる人がいいと思うんです。

この方がどうこうというのはないんですけれども、こういった大学の教授の方をこういってここに据える意味とかというのは、どのように考えて、こういう形に取っているんですか。それ

を少し、お話をお願いします。

○議長（植田博巳君）

本間係長。

○政策推進係長（本間直樹君）

議員がご指摘のとおり、ほぼ全ての市がこういった大学教授を会長に据えていると思っております。

というのは、多分、総合計画審議会というのは、いろいろな立場の方が出ていただいて、ご意見をいただくことで審議会としての意見をまとめていくんですが、そういった意見のまとめ役となるには、やはりいろいろな事例をご存じで、そういったいろいろな方たちの意見を酌んで、まとめられるような方が適するのではないかなと思っておりますので、もちろん、おっしゃるとおり、市のことを真剣に考えて活動いただく方が審議会にたくさんいらっしゃるんですけど、少し、その取りまとめ役としては、こういった方のほうが会長としては適するのかなというふうに思っております。

ちなみに小泉会長は、以前、県の職員で、県の土地利用や行革や企画などの分野で非常に手腕を発揮された方で、現在も今、全県の総合計画の事例とかを素早く教えていただけるので、私たちが相談する相手としても非常に頼りになっておりまして、小泉会長に会長をやっていただいていることは、私はふさわしい方だなと思っております。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

本当に、大学のこういった方は、いろいろな知識も豊富に持っているし、多角的に物事を考えて、すばらしい人材だと思います。

ただ、これからのまちづくりって、本当に独創的な、そのまちに独特の考え方でいかないと、子供の出生率も、ずば抜けて当市は低い水準でいる、これを打開していくためには、斬新な本当に発想を持ってやっていかないと、どんどんどんどん人口が減るといって、これは止められないと思うんです。

そういったことで、ぜひとも、この第3次総合計画というのは、当然、実現可能なものにしなきゃいけないんですけども、その中に、やはり、夢がちゃんとしっかり盛り込んで、こういうまちになったらいいなという、そこにやっぱり人って集まるといって、このまちで子供を産み育てたいという、そういうものになるように、また進めていってもらいたいなど。さらっと聞いたところでは、そんな印象を持ちました。

○議長（植田博巳君）

本間係長。

○政策推進係長（本間直樹君）

ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思いますので、また、審議会だけではなくて、

各事業の中で、本当にいろいろな方と連携をしていく必要があると思っておりますので、例えば、先ほど言ったスタートアップの件ですとか、沿岸部活性化であったり、高台もそうですが、基本的に民間の力が欠かせない中で、そういった、おっしゃったような方たちとたくさん組んで、形にしていくという考え方を私どもも持っておりますので、進め方の中でも反映させていただきま

す。

ありがとうございます。

○議長（植田博巳君）

石山議員。

○1番（石山和生君）

まず、今の審議会の話でちょっとお聞きしたいのが、審議会の今のメンバーで牧之原のことをよく分かっている方々という中に、移住とかしてきたみたいなの、そういった意味での代表の方だとか、また年齢が若いとか、そういったザ・牧之原市民ではあるんですけども、みたいな多様な意見を持った方がいるのかどうかをお聞きしたいです。

○議長（植田博巳君）

本間係長。

○政策推進係長（本間直樹君）

まず、若い方、移住してきた方ということでは、今回、入っていただいた方で、農業をやっている方なんですけど、30代の方だったと思うんですけども、子育てをしながらすごく先進的に農業をやっている方が入っていただいております。

あと、また、静波サーフスタジアムの安達社長は、やはり移住をされた方で、非常に民間企業の経営の発想で厳しいご意見もいただくんですけど、そういう新しい観光や人の流れをくんだご意見をいただいております。非常にそういった方も含めて、多様なご意見が飛び交う場になっていると思っております。

○議長（植田博巳君）

石山議員。

○1番（石山和生君）

いいことだと思っておりますので、今後もそういった多様な人を集めていただければと思います。

全体として、すばらしいなと思ったのは、スピード感を持って取組をまずやってみる、先ほどの審議会というお話がありましたけれども、総花にせず選択と集中をするということも重要だと思ったので加えさせていただきました。

質問として、若者の流出の若者というのが、どのくらいの年齢幅を指しているのかをお聞きしたかったんですけども、よろしいでしょうか。

○議長（植田博巳君）

本間係長。

○政策推進係長（本間直樹君）

今、40代までで一つ数字を取っていると思っております。子育てをしている世代という意味ですけれども、もう少し20代とか、捉え方はあると思うんですが、やはり出生数とかそういう家族世帯の定住という意味では、そこが妥当ではないかと捉えています。

○議長（植田博巳君）

石山議員。

○1番（石山和生君）

若者、僕もちょっと若過ぎると、そこはどうなのかなと思っていたので、40代くらいまでだということに安心しました。

勉強して、またご意見させていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（植田博巳君）

木村議員。

○6番（木村正利君）

2点ほど、確認したいことがございます。

まず最初に、13ページのところの人口推移のところ、令和2年度、2020年に4万3,886人という人口のところがございます、実際の統計でいきますと、推移が4万2,000人ということの中で、この4万3,000人という数字も現実論としては、この内の外国人が2,000人ほど入っていると思うんですね。そこら辺はどうでしょうか。まずは人口の確認です。

○議長（植田博巳君）

本間係長。

○政策推進係長（本間直樹君）

すみません、確認させていただくと、4万3,886人が当市の独自推計の推計人口になります。

その下の4万2,277人は、国の社会保障人口問題研究所が出した推計人口になります。国勢調査で実際にいた人が4万3,500人になっております。これには外国人も含んでおります。

○議長（植田博巳君）

木村議員。

○6番（木村正利君）

そうした観点から言いますと、令和12年の推測として4万435人で、実際の国勢調査によりまして3万5,816人という数字が出ているわけなんですけれども。

○議長（植田博巳君）

これは社人研の推計値。

○6番（木村正利君）

推計人口。私が言いたいのは、ここの外国人に占める割合というのがかなり多いものですから、実際、多文化共生的なところの考え方も、これからぜひお願いしたい。外国人が入っているということ、今、確認させていただきました。これがまず1点で。

それから、もう1点ございます。ページ数でいきますと、先ほどの都市の構造のところ、都市

の構造ということで、富士山型、ここのエリア構成の中で、この計画のところを見ますと、吉田インター推計のこういう図面があるんですけども、現実論として、これから大東吉田線を含めた他市町、また島田にはいろいろな展開をやっている中の、こういったあれが、牧之原が中心になって富士山型というのは私も賛成なんですけど、やっぱり近隣、先ほどご説明いただいた中では、近隣とのいろいろな広域的なところが構想の中に入れてございますので、そこら辺の絵的なところも、もうちょっと広げた形の計画を入れていただくと、いろいろなところで、いい形になるんじゃないかなと思ったものですから、ここら辺の、またお考えというか、この中に大東吉田線とかそういった、あと島田から来る、いろいろな魅力あるまちづくりという中では、そこは私、避けられないかなと、必要じゃないかなと感じているものですから、ここら辺についてのご意見はありますでしょうか。

○議長（植田博巳君）

本間係長。

○政策推進係長（本間直樹君）

おっしゃるとおりでございます。生活圏は、市域の境を越えておりますので、そういったものも含めて考えるべきというのは、そのとおりでして、例えば、473もこのまま上って、国1に行って、さらにとりょうなところも含めて通勤圏とか広いエリアでというふうに考えているんですが、この絵としては、牧之原市内の土地の産業と都市の構造をちょっとずらつたので、こういうような形になっているんですけども、おっしゃるような考えは既に持っているので、冊子とかにする際に、ちょっと工夫をさせていただければと思いますので。

○議長（植田博巳君）

木村議員。

○6番（木村正利君）

ここの中では、具体的に道の駅さかべというのがございますので、ぜひ、この中には大東吉田線の計画図も入ってしかるべきかなというのは、市民の意識的なところを言いますと、そこら辺の絵もちょっと入れておいていただいたほうが、皆さん賛同できるかなと思いました。

以上です。

○議長（植田博巳君）

大井議員。

○11番（大井俊彦君）

2点ほど、お伺いいたしますけれども、まず1点目として、この第3次総合計画の市の特徴ということで、これは非常に重要なことですが、計画策定とプロジェクト、その具体化の同時進行する策定プロセスを重点に置くよということ、これは非常に重要で、言葉は悪いんですけども、計画倒れにならないよということ、ぜひこれは具体的に実行してほしいという中で、この部分のことについて、この計画に具体的にどのような表現というか、していかれるのかどうかということ。

それからもう一つは、市長の肝いりの中で、富士山型ネットワークというものの充実ということがありますがけれども、この三つの拠点のつながりは、この計画でいくと、それぞれの拠点を既存の乗合いバスとか自主運行バスでつなげていくよというようなことも書かれておりますけれども、私は、ただバスでつなぐだけではなくして、三つの拠点を事業的なつながりをもっと重点に置いたほうがいいのかなどというふうに思いますけれども、その点については、どう考えておりますか。

一応、二つお願いします。

○議長（植田博巳君）

本間係長。

○政策推進係長（本間直樹君）

計画のプロセスや考え方ということで入れさせていただいたんですが、もし、先ほどの、プロジェクトと同時に進めていくということなんですけれども、少し基本計画の中で記載を入れるようなことを考えさせていただければと思います。

そういう考え方で進めるというところを、計画の推進という考え方で少し整理をさせていただくというつもりででは検討させていただきます。

それともう1点の、すみません、ちょっと確認させていただいてもよろしいですか。事業のつながりというのは、交通。

○11番（大井俊彦君）

そういう高台開発の中で行う事業と、例えば、静波、細江の拠点がありますよね、沿岸部の。そういうところで行う事業とのつながりを持たせるというか、具体的にちょっと浮かばないんですけれども、ただバスでつなげばいいということではなくして、そういう事業的なつながりをもっと持たせたほうがいいのかなどという思いがあったものですから、今そういう質問をしたんですけれども。

○議長（植田博巳君）

企画政策部長。

○企画政策部長（辻村浩之君）

確かに大井議員がおっしゃるとおりで、単発の場所場所でやっても、そこで終わってしまうということもありますので、このところの富士山型ネットワークは、当然、交通網の関係もありますし、事業的な展開も高台で来てもらった人が沿岸部にまた行って泊まってもらうとか、それがまた実際の実施をする段階の一番下の実施計画になってくるかと思っておりますけれども、またそういうところで事業展開をしていきたいと思っています。

○議長（植田博巳君）

大井議員。

○11番（大井俊彦君）

分かりました。ぜひ、そういうつながりを持たせて三つの拠点がうまくネットワーク化できる

ような形にしてほしいと思いますし、今回、ちょっと私、勉強不足なんですけれども、実施計画については、予算要求調書と何か連携しているような形になったということ、ちょっと聞いたんですけれども、その辺もあるものですから、そうしたことで、実施計画と予算との絡みもちゃんと持たせていただいて、具体化できるような形にしてほしいなというふうに思いますし、1点目の、今、本間係長がおっしゃってくださいましたけれども、表現について、基本計画で明確にしていくよというお話がありましたけれども、ぜひ、その辺は一番大事なところだと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

○企画政策部長（辻村浩之君）

最初の実施計画と予算の関係ですけれども、当然、これから、今、第3次総合計画の基本計画にも入っていきます。また、それに基づいて、来年度から第3次が始まりますので、その辺に向けた実施計画を、今年度つくっていくようになります。それに基づいた予算ができてくる。実施計画をベースにした予算ができると、そういうふうな考え方でお願いをしたいと思っています。

○議長（植田博巳君）

原口議員。

○10番（原口康之君）

少しお伺いします。まず1点、土地評価額というか、不動産評価額について、この辺、ずっといろいろな本会議とか、その年のあれを聞いていると、全然、下げ止まっていないと毎年聞いているんですけれども、この重点プロジェクトというか第2次総合計画から、ずっと第3次に、これから向かっていくわけですけれども、その辺をどのように捉えて、どのような事業というか展開していけば、上がってはいかないけれども、最低でも下げ止まるというようなあれが本当にあるのかどうか。

それと、もう1点は、その辺のあれで、格差というか、ある程度そういう事業が進んで下げ止まって、少しは上がってる部分もあると思うんですけれども、全然下げ止まらない地域というか、そういうのも市内で各地起こっていると思うんですけれども、その辺のこれからの捉え方というか、どの辺を事業にやっていくのかという、その点、2点お願いします。

○議長（植田博巳君）

本間係長。

○政策推進係長（本間直樹君）

まず、不動産評価に関しては、取引実績などから評価されているので、具体的な取引がどれぐらいで行われたかというのが大きいと思っております。

現時点では、やはり土地取引が少ないことなどから下がっているということの状況にあります。こういった富士山型ネットワークの充実などを通じて、土地利用が進んだり、住宅の運用なんかできれば、結果的にプラスになっていくということは、あり得ると思っております。

一方では、やはり現時点で価格が安いということは、それだけ同じ額で広い面積を買えるというようなところでもあるので、言い方は極端ですけれども、プロジェクトを進める段階では、少

し推進力にも切り替えられる部分でもあるのかもしれないですよ。そういうことなんかも考えながら進めていければと思っております。

あと、格差につきましては、やはり最初から全域をとというわけにはいかないの、ある程度、拠点ができて魅力ができれば、周辺に波及して、じわじわと広がっていくということなのかと思いますので、まずは、今はちょっと重点的に取り組むところをしっかりとやることで全体を底上げすることになるのではないかと捉えております。

○議長（植田博巳君）

原口議員。

○10番（原口康之君）

そういう部分で、やっぱり若い人たちが、我が市に来て建物を建てたいという、将来的に本当に財産というか、その後も確保できるの、できるのかどうかって、売り買いできるのかどうかという、そういう部分も、多分若い人たちは、これからここへ移住定住する人たちというのは、自分の財産が目減りをずっとして下げ続けられちゃうと、やっぱり困ると思うので、その点、本当にしっかり考えていく必要があるのではないかと考えますので、よろしく願いいたします。

○議長（植田博巳君）

ほかに。

名波議員。

○4番（名波和昌君）

2点、お伺いをさせていただきます。

まず1点は、市の一番課題というのが、若者の減少というふうに記載されているんですが、これに関連して、過去に市民団体との意見交換等をやられていると思いますし、今後も意見交換の場が6月以降、計画されていますけれども、その中に、審議会のときに、若者の方々の意見が反映されたのかどうか、6月以降の意見交換会に若い人たちの世代との意見交換の場があるのかどうか、その辺のところを1点お聞きします。

それともう1点は、計画の構造の中の基本的考え方の中に、まちづくりというものがあって、その最初に安心安全というキーワードが含まれているんですが、ここが重点方針あるいは重点戦略プロジェクトの中に、どうも欠落しているような気がしてならないんですが、その点についてはいかがでしょうか。

○議長（植田博巳君）

本間係長。

○政策推進係長（本間直樹君）

まず、若い方たちとの意見についてなんですが、前回の委員会でもご指摘をいただきまして、たしか6月中に、高校生の榛高の探求の授業のことがありまして、そこでちょっと高校生には聞くような場面をつくっていきたいと思っております。

あと、事業の推進と併せて計画をとということを先ほども申しましたが、少し若いお母さんたち

と一緒に関わる事業も検討している中で、そういったご意見を聞くような場面を設けたいと思っておりますので、ここは継続して進めさせていただきたいと思っております。

もう1点、安心安全のところが欠落しているということなのですが、やはりこの地域の特性として、東日本のときに、すごく人口の影響を受けたというようなことから、海に面した暮らしというのは魅力である一方で、そういった危機意識と密接に関係しているというようなところは、忘れてはいけないことであるとは思っております。

ということで、これについては、各施策や各取組の、特に心得て進めるようなところで、少し一番最初にもってきたんですが、取組として、それを特に重点的にというよりは、そういったことは各施策の中でしっかりやりつつも、取組としては、やはり若者の減少や拠点や魅力をつくっていくところなどに力を入れていきたいというような、そういうすみ分けで考えさせていただいているものです。

以上です。

○議長（植田博巳君）

名波議員。

○4番（名波和昌君）

分かりましたが、ただ、若者がここに移住する、あるいは、ここに戻ってくるということの中の大きなキーワードに安心と安全というところもあるのではないかなというふうに感じています。

そういったところも併せていくと、若者の減少が一番の課題ということであれば、それを解決するための施策を重点的にやるということも非常に重要ではないかなというふうに思いますので、先ほどの意見交換会の中で、高校生とかというお話がありますが、それよりもやっぱり世代を上げたところの、先ほどお話があった40代までを若者というふうに捉えていらっしゃるということなので、その辺のところまで幅を広げた形で、生の意見を吸収して、それをいかに反映していくか、できないことも当然あるとは思いますが、そういう生の意見をどれだけ聞くかというのは、かなり重要な点ではないかなと思いますので、ぜひ進めていただければなというふうに思います。

○議長（植田博巳君）

本間係長。

○政策推進係長（本間直樹君）

ご意見を聞くという点は、ご意見をいただきましたので、考えさせていただくんですが、やはり、防災施設の整備の観点で言うと、ある程度、整備が進んでいまして、例えば、今後、国がL2を含めてやっていくかというようなところのハードの考え方というのは、市が4年単位でやっていくプロジェクトとは少し違う、もっと大きな単位のものではないかなというふうにも捉えております。

そういう意味では、やはり訓練や意識啓発みたいなところは、ある設備を使って、みんなが安心安全をちゃんと考えていく生活をしていくみたいなのところは非常に大事だとは思いますが、ここに掲げるプロジェクトのようなものとは、少し、私はちょっと種類が違うのではないかなと

いうふうに捉えておりますので、一応、そういう考えを持っておりますが、またご意見を聞く中で、そこはさせていただきます。

○議長（植田博巳君）

石山議員。

○1番（石山和生君）

今、若者からの意見のところの代表例で、高校生が出てきていたと思うんですけども、先ほどの例だと若者が40代くらいまでということだったので、高校生だけじゃなくてそういった年代別じゃないですけども、地区と地区やらないあると高校生みたいな枠になっている気がするんですけども、40代までだったら、そこを40代だけとか、分からないですけども、そういった若者の範囲が広いんだとすると、ちょっと高校生に寄り過ぎなのかなとも思ったんですが、あるんだったらあれなんですけれども、お聞きしたいです。

○議長（植田博巳君）

本間係長。

○政策推進係長（本間直樹君）

若い人のご意見を聞いていくという姿勢であることは、もちろん変わらないんですが、やはり、たくさん意見を聞くから、そこに効果的な手が出るかというよりも、そういうことを知ってもらって一緒に考えていきましょうという場面と、やっぱりある種、動きを生み出すためには、また違うプロセスも必要な部分というのももちろんあると思います。

高校生は、今回、ちょっと例えば、正直言うと、高校生に聞くと、もちろん中には素晴らしいご意見を持っている子もいるんですが、多くの子たちは、やはりそこまで深く考えていないようなところもあるので、どちらかという、高校生に知ってもらったり学んでもらったり、その中で、特に何かやってみようという子が生まれれば面白いと思うぐらいの入り口かなとは思っております。

○議長（植田博巳君）

石山議員。

○1番（石山和生君）

だからこそ、僕もそういった認識があるがゆえに、若者を一番のターゲットにしているんだとすると、やっぱり若者から中心に意見を聞かなくてはいけないと思っていて、その中で、40代まで考えたときに、高校生だと、今おっしゃってたような考えもあると思うので、やっぱり30代、40代のまちを支えていく人たちから意見をいただくというのは、重要なことではないかなと思いました。一意見ですので大丈夫です。

○議長（植田博巳君）

ほかはよろしいですか。

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

概要についての2ページに、総合計画とはとありますけれども、市長に考え方を伺いたいですけれども、牧之原市自治基本条例第15条の中で、基本構想及びこれを具体化するための基本計画を策定するものと、基本構想と基本計画が同列で表現されている条。それでこの二つをもって総合計画ということで、括弧して、この二つを総合計画ということにしてあるんですけれども、最終的にこの場合において基本構想は議会の議決を経て定めると。抜き出して基本構想だけを議会の議決ということになっております。

ですから、これをもって我々は、現在、基本構想が議会の議決事項ということなんですけれども、この括弧書きして、以下、総合計画ということで、基本構想と基本計画を一つにした以上、最終的に基本構想だけが議会の議決というのは、少し不自然な気がするんです。

総合計画は議会の議決を経て定めるといふことのほうが自然のような印象が持たれるんですけれども、市長はこの点については、どのようにお考えになりますか。

○議長（植田博巳君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

ここの自治基本条例の読み方といいますか、理解の仕方、読み取り方によっては、そう取ることもあるかもしれませんが、やはり基本構想、ここがやっぱり一番大事だと思うんですね。ですからそこは議会の議決をいただいて、基本計画というものは、そのときそのときの、4年間の中でも、いろいろな課題やニーズが変化していくと思うんですね。そこをやっぱりフレキシブルに対応していく必要があると思うんですね、毎年毎年、見直したりですね。

そういったことからすると、構想については議会の議決をいただいて、基本計画については、フレキシブルな形で運用していくということがいいということで、私のほうはそういう解釈をさせていただいているということでもあります。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

考え方は分かりました。

ただ、一つ言えるのは、現在、ほかの自治体の市議会でも実際には基本計画まで議決ということをしているまちもあるものですから、そこは考え方の、今、市長が言われたのも、それも一つの考え方だと思います。分かりました。

○議長（植田博巳君）

ほかには。

〔「なし」と言う者あり〕

○議長（植田博巳君）

それでは、ないようですので。

これは重要な計画でありますので、またこれから十分、また審議していきたいと思っておりますので、

今日はこれで協議事項は終了したいと思います。

執行部の皆さん、ありがとうございました。

3 その他

○議長（植田博巳君）

その他は、ないですか。いいですか。

〔「なし」と言う者あり〕

○議長（植田博巳君）

その他は、ないようですので、これで、議員全員協議会を終了いたします。お疲れさまでした。

〔午前 9時57分 閉会〕